

中国語教育学会会報

第3号(通巻28号) 2002年11月2日発行

下記事務局へのご連絡は郵便で

中国語教育学会 〒156-8550
東京都世田谷区桜上水3-25-40
日本大学文理学部中文研究室内
郵便振替口座 00110-1-191152

秋は学会シーズンである。複数の学会に所属していると、例会やら年次大会やらバッティングも多い。わが中国語教育学会は前身の全国中国語教育協議会の時から月例会は毎月第2土曜、年次大会は3月下旬と決め、他と重なることのないようにしている。

学会発足初年度の月例会は今号ご案内の12月分で、計6回の開催を数えることになる。今年度の年次大会も今号ご案内のように明春

3月開催の準備を進めている。会員の積極的な報告発表を中心にしたプログラムを組み、本会の名にふさわしい大会としたい。準備作業は、11月9日に開催する第1回理事会の論議を受けてスタートさせる。理事会では学会運営の基礎固めとして、事務局体制・月例会運営・財政基盤等を中心議題とする。次号会報でご報告したい。暫定予算案も提出する予定だが、10月末現在で会費の納入率が60%ほど、やや心もとない。

\$\$\$ 12月例会のご案内 \$\$\$

日時 12月14日(土) 14:00~16:30

場所 国際文化フォーラム会議室

新宿駅西口から都庁方向に徒歩約10分、センチュリーハイアットホテルに隣接の第一生命ビル26階。

人と題 今回は竹中佐英子氏(東京外国語大学・北京師範大学で主に教授法を研究)に報告していただきます。

公共外語の汉语教学法分析

【内容提要】公共外語の汉语教学研究一直受到日本汉语研究者的关注，他们发表过许多有关汉语教学的论文，但是教学效果还不太理想。其原因有课堂教学设计研究的不细致，也有对日本人汉语认知规律

调查的不细致等。这次报告根据数据统计及相应学科的理论对公共外語的汉语课堂教学上常常发生的问题进行分析。重点介绍分析的问题如下：

1. 课堂教学模式：怎样提高听说能力？
2. 课堂教学技巧：提示、板书、练习、点名……
3. 教材的针对性：语料库、话题的选择
4. 语音教学的难点：第三声、鼻韵母
5. 汉语汉字读音教学：拼音在对日汉语教学上的位置

希望能为公共外語的汉语教学研究提供一些借鉴。

※ 会場整理の都合上、必ず ~~服装~~ 服装を清潔にしてください。

【中国語教育学会 第1回全国大会 予告】 下記の日程です。2月初めまでに正式ご案内をします。

日時 2003年3月27日(木) 9:30~17:00 [月日は決定ですが、時刻は若干変更もあります]

会場 日本大学文理学部百周年記念館 (場所は会報p.1題字右の本会事務局所在地と同じ)

交通 JR新宿から京王線下高井戸下車、徒歩10分。渋谷からは井の頭線で明大前乗り換え)

大会における会員の個人発表(発表20分、質疑10分)を募ります。p.4をご覧ください。

孫玄齡先生の今回のお話は、各種スピーチコンテストのレベルが年々向上してきたことを踏まえ、どのように学生にスピーチの指導をするかというテーマでした。

実際に国内のスピーチコンテストに参加した日本人学生の文章と録音テープを例として使用しました。どの文章もテーマがその学生にとって身近なもので無理がなく(祖母・母・自分の3世代の女性の行き方を通して21世紀の女性について論じたもの、思い悩む性格からどのように脱却し今の明るい自分になったかを語ったものなど)、教師の文章でなく、学生自身の言葉で書かれたもので、またスピーチも発音が正しいばかりでなく感情が自然に入ったすばらしいものでした。

毎回の事ながら、孫先生の指導力と、学生との関係の深さ(学生にテーマを与えるのではなく、自分自身の事を書かせるには教師と学生の信頼関係も関わってきます)に感銘をうけるとともに自分の至らなさを考えさせられました。(島田亜実記)

以下は当日配布されたレジュメの再録です。学生自身のスピーチ原稿等はカットしました。

怎样提高学生的演讲水平

(丽泽大学) 孙玄龄

(一)关于中文演讲

在日本国内，各地区几乎每年都要举行中国语辩论大会，估算起来，数量也不算少了。虽然说是辩论，实际上叫做演讲或是演说比较恰当。形式上是一个人在台上发表，发表之后审查员提一些问题进行回答。近些年来，这种辩论大会的水平不断提高，而且提高得很快，从某些方面来看，辩论大会反映了日本中文学习的水平，当然，也反映出了中文教学的成绩。与以前的辩论大会相比，主要表现在以下的两点上有很大不同：

1. 演讲发表者的水平逐年提高，大部分的人都能做到发音准确流利，发表内容也趋于复杂，具有较高的会话能力。
2. 与上者相辅相成，在发音，语感，表达感情等方面，对演讲者的要求越来越高，几乎是和对中国人的要求一致了，达到了相当严格和严峻的地步。

(二)关于指导学生参加辩论大会的几个步骤

1. 动员有能力的学生参加演讲

因为演讲是比普通说话更加引人注目的一种说话方式，愿意参加这种活动的学生并不多，所以，教师要在平时多注意和掌握学生的情况，动员有能力的学生参加。一般的情况下，学生在参加了辩论大会的活动之后，反映都比较好。他们通过演讲不但知道了自己的不足，更重要的是他们能够发现自己具有的能力，增强信心。同时，还能开阔了眼界，了解到社会上学习中文的整体情况。总的来说，参加辩论大会的活动对学生调整自己的努力方向和改进学习方法都有很大的促进作用。

2. 对学生作文的指导

从学生学习的整体情况来看，书写的能力还不太高，赶不上语音表达的水平。所以，无论是在日本还是在中国都是一样，写好演讲稿是走向演讲台的关键。也就是说，作文指导是演讲指导的第一步。

首先要指导学生选好内容。学生一定要写自己熟悉的事情和自己想说的事情。因为，教师只能是改写学生的病句和错误部分，不能为学生编写内容。因此尽量避免和少写大众化，甚至是应景的题目。要学生多写一些，多写几次，从中找出最有特点的部分，让学生仔细地把自己想说的事情，自己被感动的原因想清楚，尽量地写出来，之后，教师才可以进行删改和加工。如果不注意这一点，容易出现教师代写的情况及写得太像中国学生的文章了。

演说文要有说服力，同时要有感染力。所以，教师在指导修改作文的时候，要注意文章的逻辑性和文章表现的艺术性，要使文章和发表者成为一体，尽量体现其独到的见解及特色。要避免生硬书面语，不要使用超过学生水平的生冷词句及过分的说法，要表达准确生动。

另外，讲稿完成以后，要读一读才能定稿。因为有时看上去没问题而读起来拗口的现象是时有发生。

3. 演讲的具体指导

日本学生的特点是表现幅度比较小，感情的表现比较含蓄。这一点，对演讲来说是不利的。因此，首先要求学生克服这个缺点，面向听众。

演讲的指导要分几个步骤来进行。

(一)尽量要求学生及早背下来，清清楚楚地明白自己在台上说的是什么。强调地告诉学生，在没有把握下的发表，是绝对不能成功的，留下的只是遗憾。

(二)每个学生都有自己的几个发音弱点，在反复的练习中，每次都要给与指出，提醒学生必须注意解决。而且，还要向学生指明：演讲不是普通的会话，只有大声练习，才能大声发表。

(三)对于以下的部分分别进行指导

根据演讲内容设定演讲基调。每次练习都是处于演讲内容之中。

练习保持一定的速度，节奏，不能忽慢忽快。

分清段落，层次清楚，不能联成一片。

有清晰的语气及正确的语调，做到形象突出，听起来亲切。

演讲时的心态调整。要放松，不紧张。

临场时的对应：忘词，说错了的时候的补救方法。

回答问题的准备：问题一般都是文章内容的延伸，所以根据内容自己多设定一些问题做练习。这样，就不会临场说不出话，回答不出来。

经过了指导和充分地练习，大多数的学生都能够做到有准备和有把握地去参加演讲了。

4. 对于中国语演说的展望

演讲练习的重要性也在于它是口语训练的一部分。缺少了这个部分，应该说我们的外语教学是不完全的。因此，给予学生们以更多的机会参加演讲，也是今后教学中应该注意的内容之一。

另外，外语演讲不单是发表而已，它还是检验语言学习成绩的一种方式，它是对口语和书写能力的综合检验。所以，随着学习中国语人数的增多和水平的更加提高，将来，用中文演讲的机会不但会越来越多，也会越来越引起人们注意的。

希望今后各个方面能为学生们创造出更多的演讲机会，同时，适当减少一些竞争的成分，使同学们能轻松愉快，积极踊跃地参加，这样的话，对我们的教学也一定能起到很大的协助作用的。

中国語教育学会 例会記録 (2002年10月12日 国際文化フォーラム)

高校における中国語教育は昨年度で430校にも達したという。しかし、英語なみの授業時間数を実施する例は限られ、特定の学年だけで、週当たり数時間といった高校も少なくない。このような状況も踏まえ、高校生に照準を合わせた教科書の必要性が高まるなか、高校の中国語教育に関わる先生方のグループ——小溪教材研究チームが「高校生からの中国語」という教科書を編さんされた(白帝社、02年7月刊)。コミュニケーション能力の向上が期待できるユニークな設計になっている。今回は代表者の胡興智氏のご苦心の点を報告された。(⇒ p. 4)

⇒以下は胡興智氏の10月例会報告のレジュメの再録です(p.3参照)。

「高校生のための中国語教科書」 小溪教材研究チーム

高校中国語教育の現状//教科書を作るきっかけ//編集方針//教材作りの留意点/音声重視/文法か機能かくコミュニケーション重視>/前半:自己発信型、後半:対話文中心/コラムの選択/定着させる手段/紙面構成・単語選び・練習などの工夫//教科書の使い方/授業案:ロールプレアのやり方/実際に使ってみた感想//指導案:第一課・第二課//改善すべき点/これからの展望/教材だけではなく・教授法についての勉強会・教学経験の共有・教授法レベルアップ・学習者への理解を深める//

会費納入について

10月末現在、今年度会費の納入率は60%ほどです。未納の方には会報に添えて用紙をお届けしましたので、早めにお振り込みをお願いします。入れ違いに納入された方はご容赦ください。新しい会則による年会費は、個人・団体とも5,000円です。口座番号も新しくなりました(00110-1-191152)。

なお、昨年度までの中国語教育協議会の会費の未納分も別途ご請求しております。

SS 事務局だより SS

◆◆学会移行後の月例会、会報発行とも軌道に乗せることができた。月例会は協議会が重点活動としていたセミナーを控えめに、教授法、教科書、教育内容等に関する報告や資料の紹介、情報の伝達等に力点を置く
◆◆新しい組織になって最初の理事会を11月例会の日に開催する。審議の詳細は次号で報告する◆◆身辺に入会希望の方があれば、ご勧誘賜りたい。申し込み用紙を急送する

学会誌・会報掲載原稿の
投稿についてお願い

学会活動の要(かなめ)として、今年度末に会誌の発刊を予定している。応募原稿は400字詰め原稿用紙換算50枚以内。中国語学、中国語教育に関する研究論文、資料、論説等。投稿は理事若干名の審査で採否を決定。原稿はワープロに限り、用紙に印字したものにフロッピーを必ず添付する。ファイルの形式はWindowsで作成されたもの、できればMicrosoft Word文書ファイルが望ましい。中国語はGB、またはBIG5で入力されたもの。「Chinese Writer」「Nihao Win」「cWnn」「中文起稿」等も可。2003年1月15日に必着。なお、単独に刊行するに足る内容の場合は、投稿者と協議の上、従来の『研究ファイル』形式で刊行することもあります。

ほかに、下記の原稿は随時受け付けます。
会報掲載原稿 ①教室での工夫・授業のアイデア ②教学実践記録(教案等も含む) ③国内外の中国語教育・研究関係学会・研究会・シンポジウム紹介 ④外国語教育の分野で新書紹介・書評等。ワープロ使用を原則とし、1千字以内。採否は事務局による。以上の投稿はすべて返却いたしません。

中国語教育学会第1回全国大会
研究発表者を募ります

明春、2003年3月27日(木) 9:30~17:00の日程で開催を予定しています。会場は事務局所在地の日本大学文理学部百周年記念館です。詳細は次号会報(2月初めを予定)に掲載しますが、会員の研究報告に相当の時間をあてたいと思います。中国語学、中国語教育に関する研究成果をはじめ、指導法・教学実践の紹介等、できるだけ日常の教育現場に密着した内容がふさわしいと考えています。発表は20分、質疑10分の合計30分を持ち時間とし、質疑応答や参加者との意見交換を重視します。ぜひ奮ってご応募ください。申し込みは事務局に2003年1月15日に必着で、1千字以内のレジュメ(内容提要)も併せてお送りください。原稿はワープロに限り、用紙に印字したものにフロッピーを必ず添付。ファイルの形式は左記の会誌応募原稿に準じます。提出された原稿のままコピーしたものを会員に送付します。なお、理事若干名の審査で発表の可否を決定しだい、事務局からご連絡申し上げます。大会の開催日については確定していますので、各位のご予定に組み入れていただきたいと願っております。